亀山市議会市民アンケート調査
報告書

令和８年１０月

亀山市議会

Ⅰ．調査概要

１．調査の目的

亀山市議会では、平成２２年８月に議会及び議員の活動についての基本理念を明確に掲げた「亀山市議会基本条例」を施行し、開かれた議会の実現に向けて議会改革に取り組んでいるところである。今後、さらなる「議会の見える化」の推進を図るため、市議会に対する市民の率直な意見・要望を把握し、今後の議会改革の資料とするとともに、市民の意見を改革に反映することを目的として実施したものである。

なお、令和８年の調査は以前と手法を変更し、事業者への業務委託から議員が主体的に調査・回収・分析を行うこととした。

２．調査の設計

（１）調査地域 亀山市全域

（２）調査対象 市民（市内に在住、在勤、又は在学する者）

（３）調査方法 インターネット、市内各地区コミュニティセンターに配票、議会だよりに折込み、回収

（４）調査時期 令和８年６月

３．回収結果

有効回収数 ４１１件

４．報告書をみるにあたって

（１）集計は小数点第２位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。

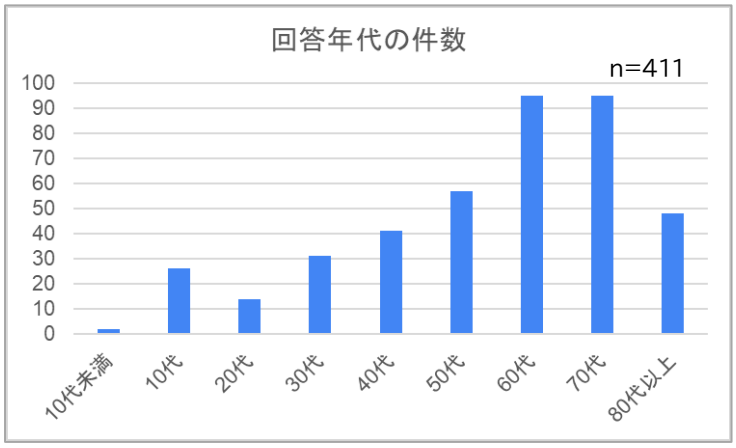
（２）２つ以上の回答を要する（複数回答）質問では、その回答比率の合計は 100%を超えることがある。

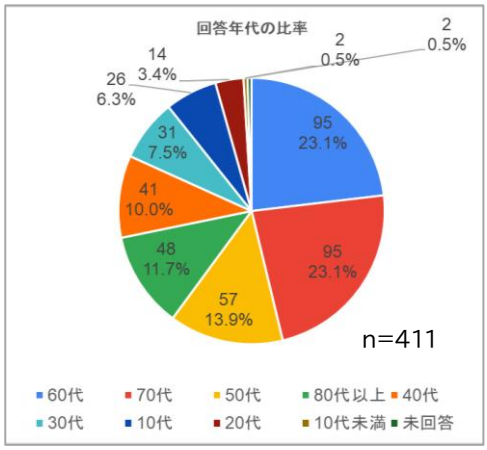
（３）図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答を除いているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は一致していない。

5．回答者の属性

（１）年齢

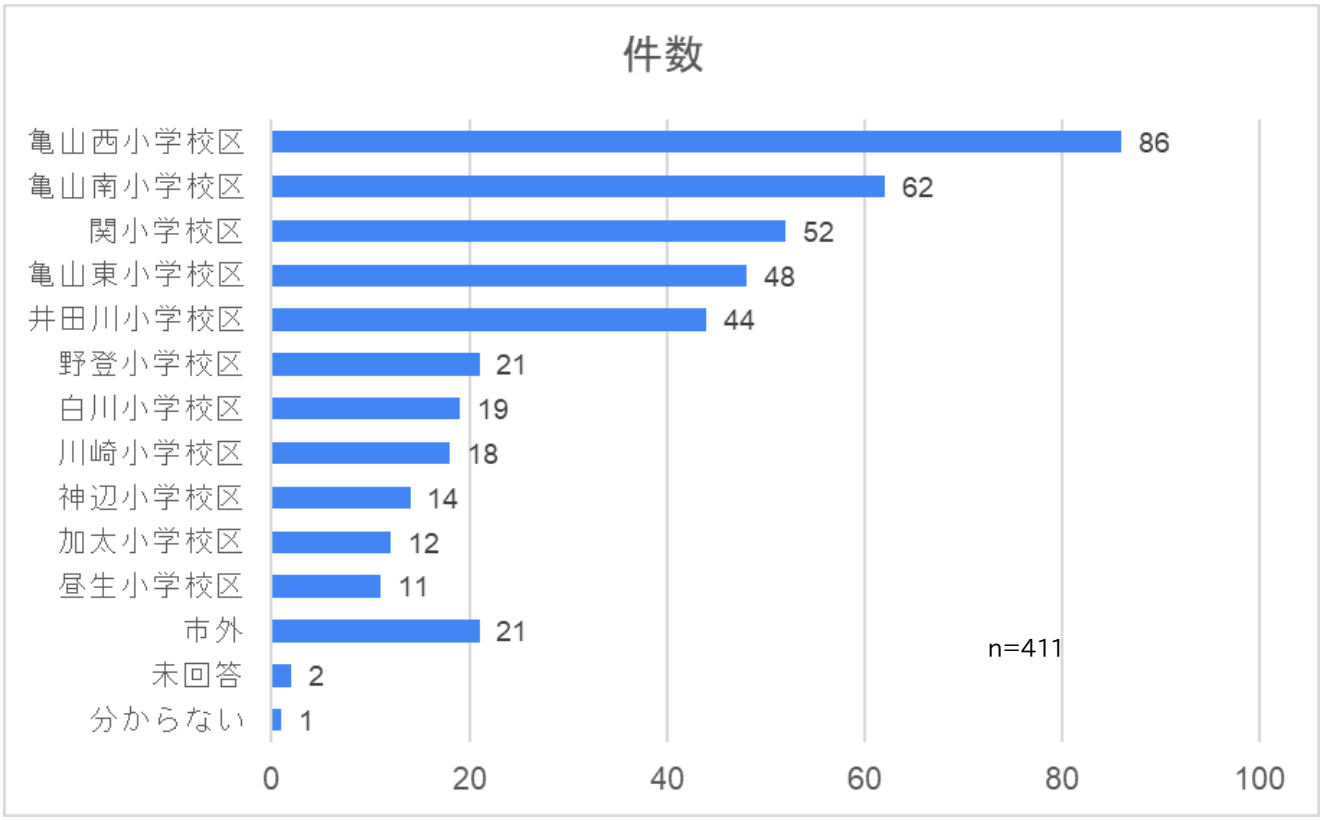
回答者の年齢構成は、60 代、70 代（いずれも 23.1%）が最も多く、次いで 50 代（13.9%）、80 代以上（11.7%）、40 代（10.0%）、30 代（7.5%）、10 代（6.3%）、２０代（3.4%）、10 代未満（0.5%）の順になっている。





（２）居住地区

回答者の居住地区は「亀山西小学校区」が最も多く、次いで「亀山南小学校区」、「関小学校区」、「亀山東小学校区」「井田川小学校区」「野登小学校区」「白川小学校区」「川崎小学校区」「神辺小学校区」「加太小学校区」「昼生小学校区」の順となっている。

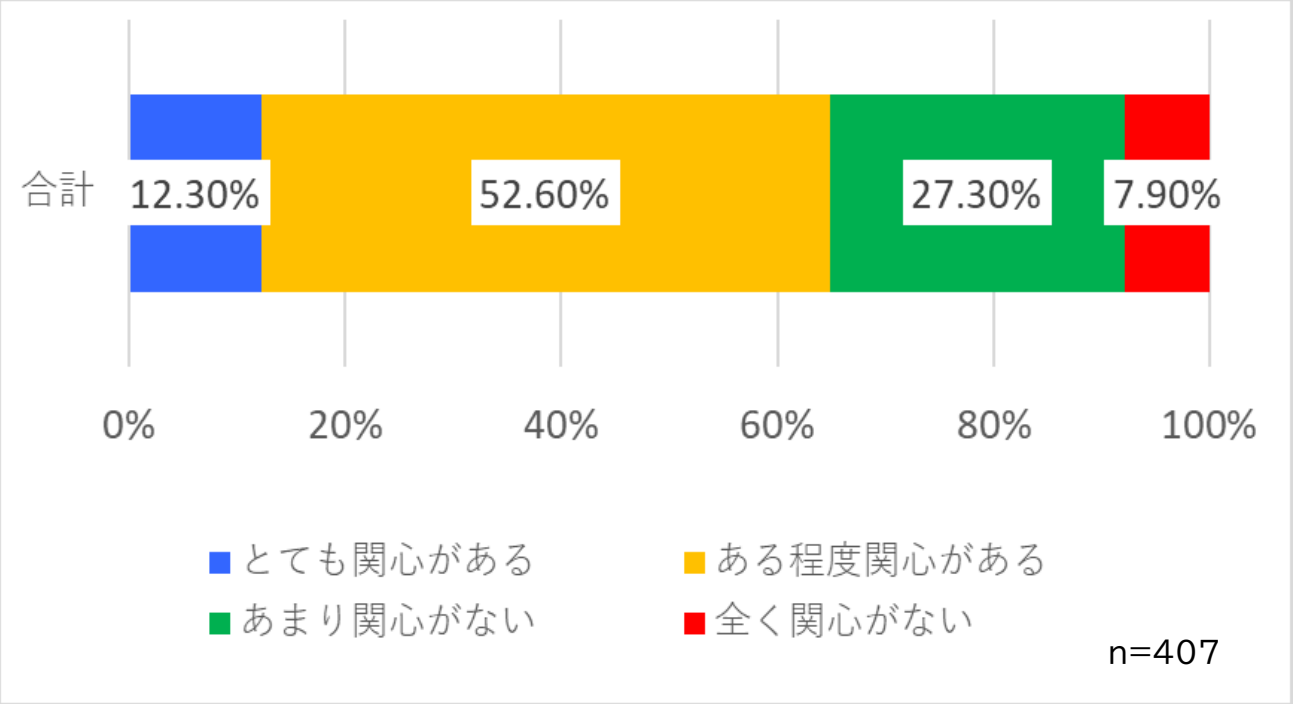


Ⅱ．調査結果

１．議会への関心

（１）議会に関心ありますか

議会への関心をみると、「ある程度関心がある」（52.6%）が最も多く、次いで「あまり関心がない」（27.3%）、「とても関心がある」（12.3%）、「全く関心がない」（7.9%）の順となっている。



（２）どうしたら議会にもっと関心を持てると思いますか（記述式）

自由記述からは、単に「議会に関心を持ってもらう」というより、議会をもっと身近に、分かりやすくする。「情報を分かりやすく届ける」、「市民が参加・対話する」、「議論の内容や結果を見える化する」という流れが求められていると整理できます。

自由記述では、LINE や Instagram など SNS を活用した情報発信を求める声が多く寄せられました。また、議会で「いつ、どのようなことが議論されているのか」を分かりやすく伝えることや、市議会だよりの工夫、議員からの発信を求める意見もありました。

一方で、本会議の傍聴、ミニ集会やイベントなど、市民が議員や議会と直接接する機会を増やしてほしいとの声もありました。

さらに、市の将来に関わる重要案件の進捗や市の考え方を定期的に発信してほしいという意見もあり、「情報発信の充実」と「市民との接点づくり」、そして「議論の見える化」が示されています。

自由記述の主な意見

① SNS・スマホによる情報発信

LINE、Instagram、SNS、インスタライブなどを活用してほしい。若い世代にはスマホで身近に情報が届くことを望んでいる。

② 議会情報を分かりやすく発信

いつ、何を議論しているのか知りたい。市議会だよりの工夫、議員個人からの発信、PR不足との意見である。

③ 市民が直接参加できる機会

本会議等の傍聴、ミニ集会、イベントなど、市民が議員や議会と直接接する機会を増やしてほしい。

④ 身近なテーマを扱う

自分事として関心のある課題、生活に身近な課題を分かりやすく伝えてほしい。

⑤ 議論の質・政策形成

賛成の場合も多角的にチェックするなど、政策を深く議論してほしい。

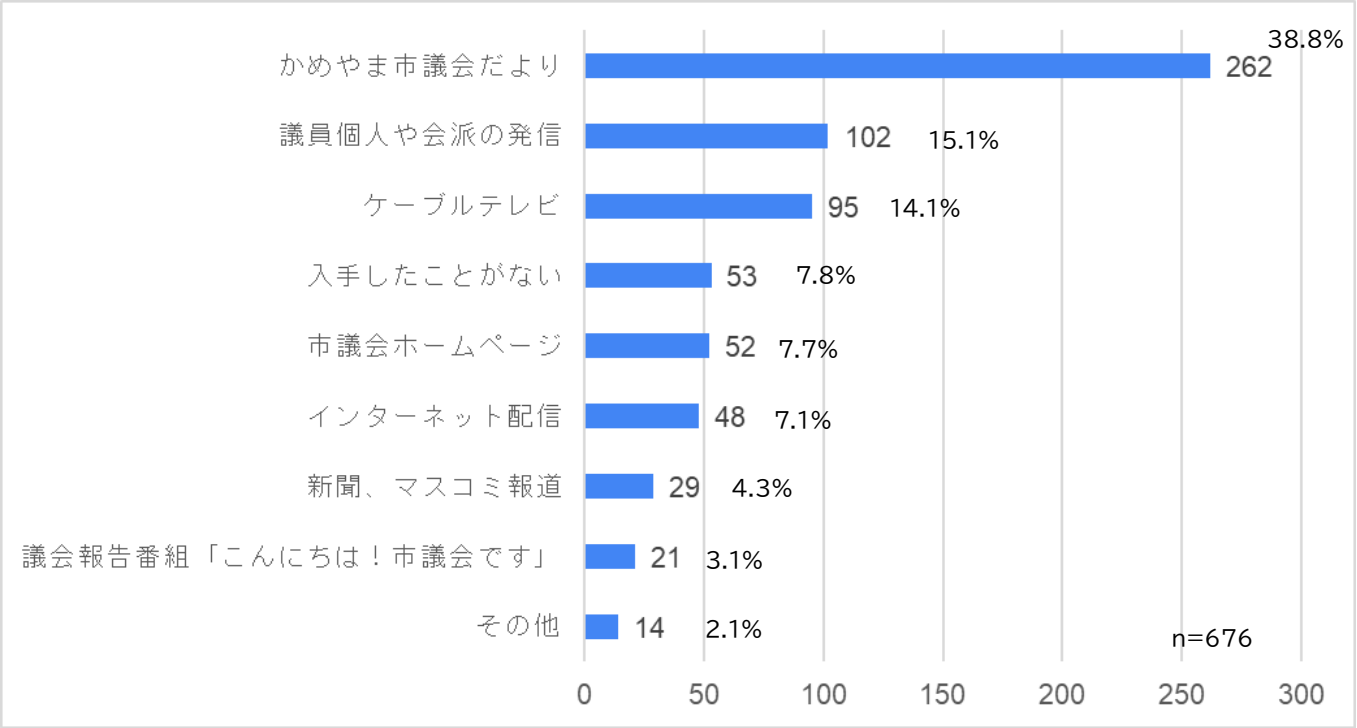
⑥ 重要案件の進捗発信

コストコ誘致、シャープ亀山工場売却、リニア新駅など、市の将来に関わる案件の進捗や市の考え方を定期的に発信してほしい。

２．議会の身近さ、議会への期待

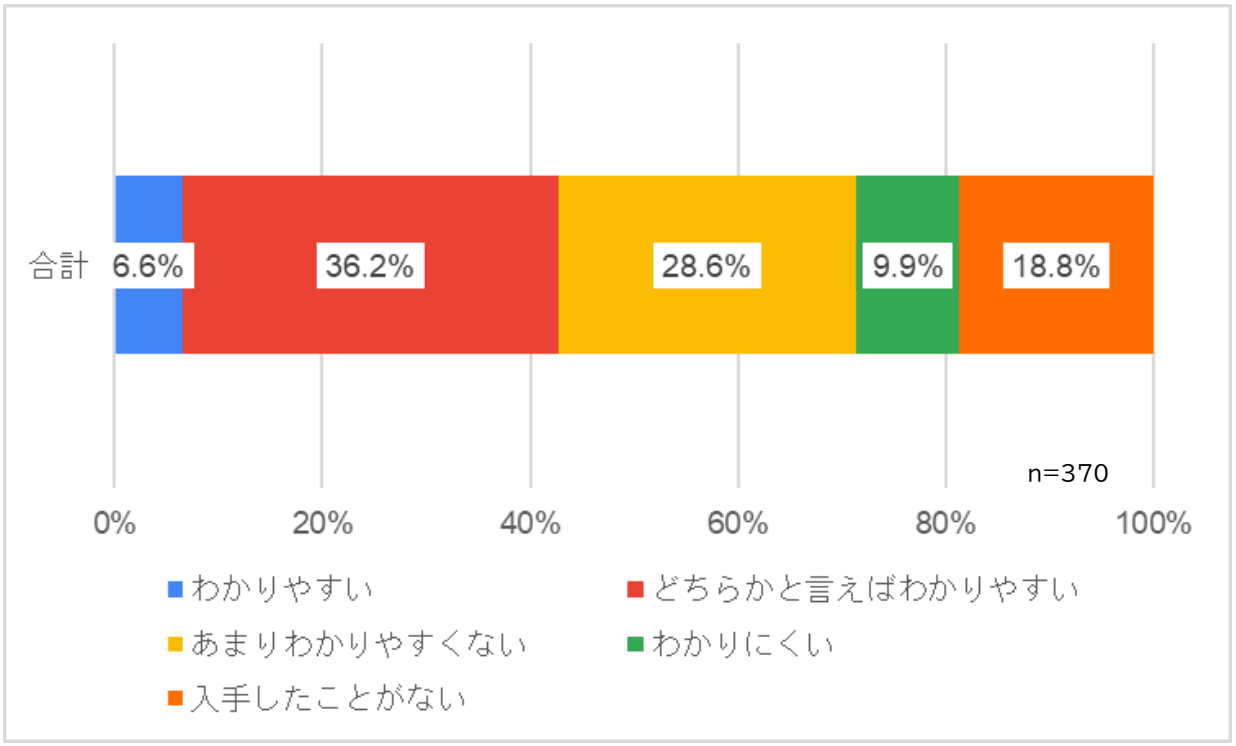
（１）議会の情報を何から入手していますか

議会の情報を何から入手しているかは、「かめやま市議会だより」２６２（38.8%）、「議員個人や会派の発信」１０２（15.1%）、「ケーブルテレビ」９５（14.1%）、「入手したことがない」５３（7.8%）、「市議会ホームページ」５２（7.7%）、「インターネット配信」４８（7.1%）、「新聞・マスコミ報道」２９（4.3%）、『議会報告番組「こんにちは！市議会です」』２１（3.1）、その他１４（2.1%）の順となっている。



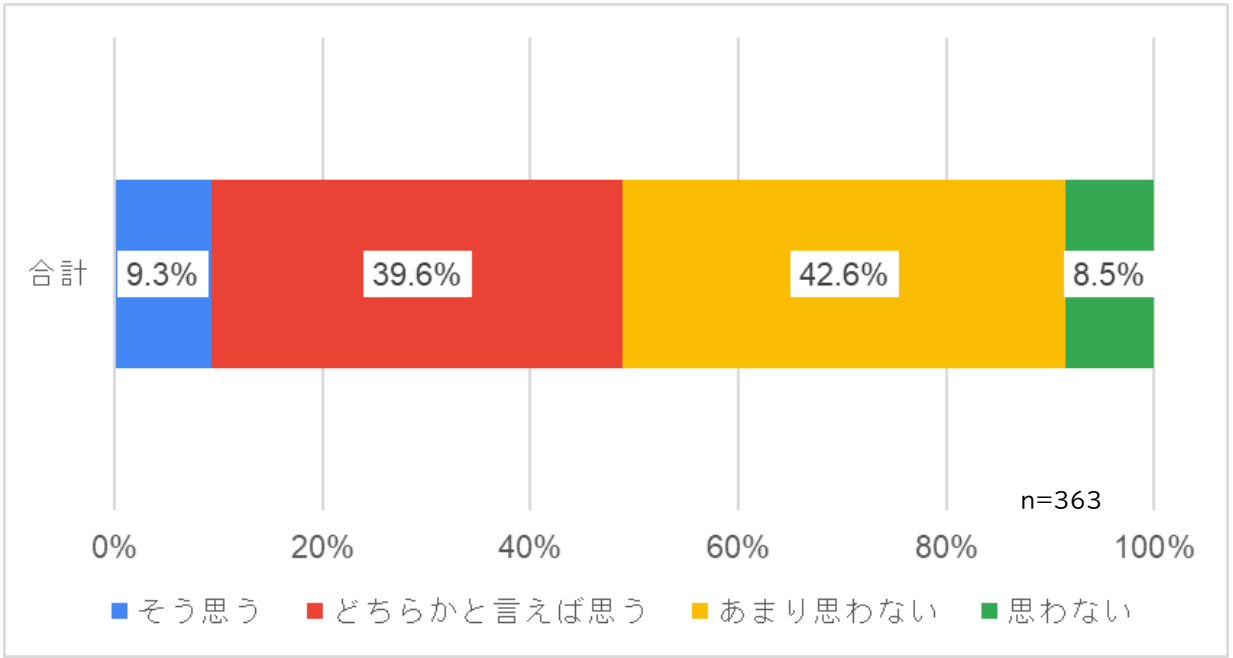
（２）議会の説明や情報配信はわかりやすいと感じますか

議会の説明や情報配信について、「どちらかと言えばわかりやすい」（36.2%）が最も多く、次いで「あまりわかりやすくない」（28.6%）、「入手したことがない」（18.8%）、「わかりにくい」（9.9%）、「わかりやすい」（6.6%）の順になっている。



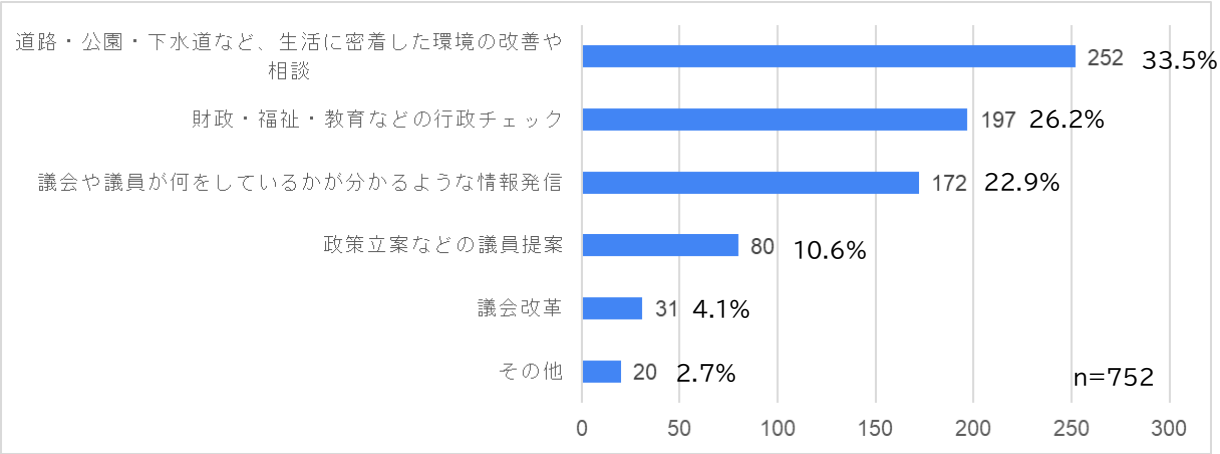
（３）議会は市民の皆さんの意見を、市政に届けていると思いますか

「あまり思わない」（42.6%）が最も多く、次いで「どちらかと言えば思う」（39.6%）、「そう思う」（9.3%）、「思わない」（8.5%）の順になっている。



（４）議会や議員に期待することは何ですか（複数回答可）

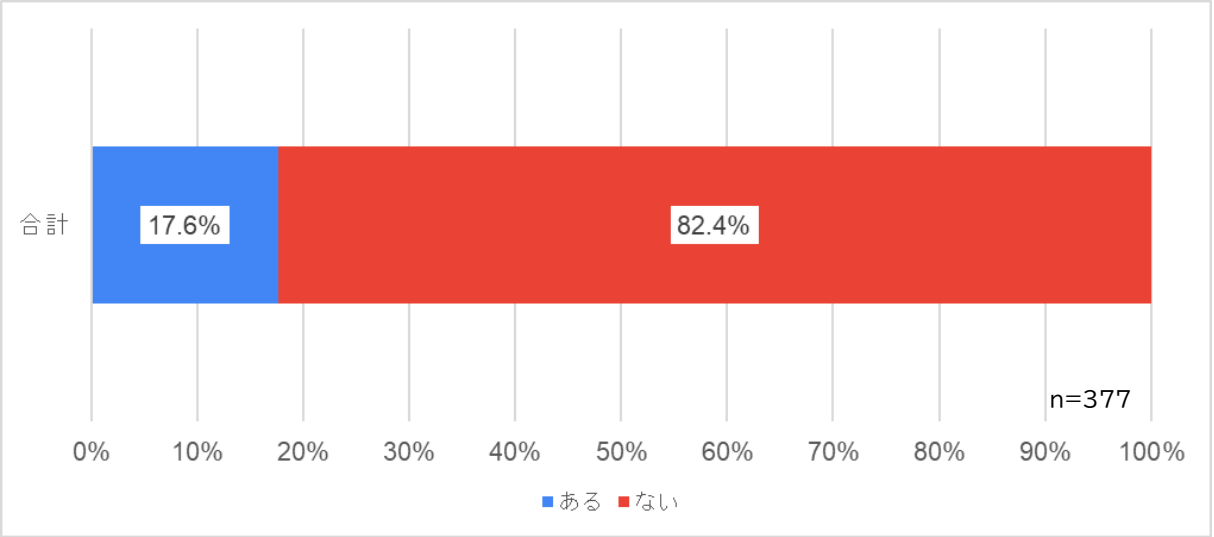
議会や議員に期待することでは、道路・公園・下水道など、生活に密着した環境の改善や相談 252（33.5%）、財政・福祉・教育などの行政チェック１９７（26.2%）、議会や議員が何をしているかが分かるような情報発信 172（22.9%）、政策立案などの議員提案 80（10.6%）、議会改革 31（4.1%）、その他 20（2.7%）の順になっている。



３．市民が議会に意見を届ける方法

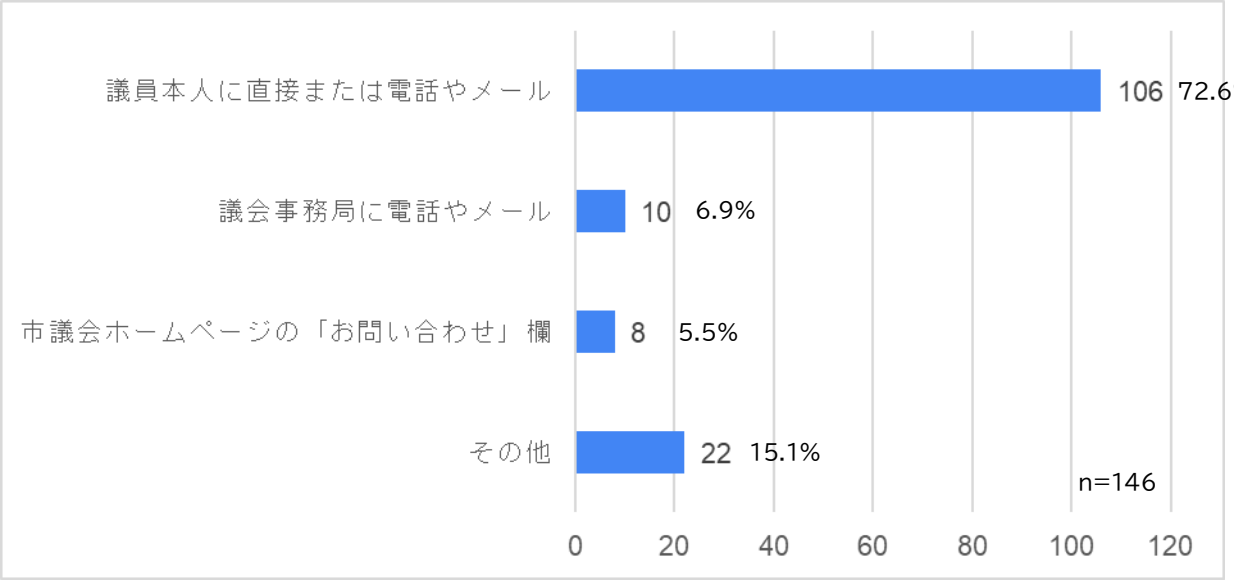
（１）議会に意見を届けたことがありますか

「ない」（82.4%）、「ある」（17.6%）



（２）どのような手段を使って届けましたか

議員本人に直接または電話やメール 106（72.6%）、議会事務局に電話やメール 10（6.9%）、市議会ホームページの「お問い合わせ」欄 8（5.5%）、その他 22（15.1%）の順になっている。



（３）議会に意見を届けやすい新たな仕組みとして、ご提案があればお書きください。

（記述式）

今回の回答で特徴的なのは、単に「意見を言える場所が欲しい」だけではなく、「どこにどのようにして意見すれば良いか自体を知らない」、「どんな意見を今まで受け付けて届けたのか分からない」という声があります。

自由記述の主な意見

① SNS・LINE・WEB の活用

公式 LINE、SNS、Instagram、メール、WEB フォーム、アプリなどで、スマートフォンから気軽に意見を届けたい。

② 目安箱・意見箱の設置

市役所だけでなく、商店、コンビニ、ショッピングセンター、地区コミュニティセンター、集会所など、身近な場所に設置してほしい。

③ 市民アンケートの継続

今回のような WEB アンケートを定期的に実施し、幅広く市民の意見を集めてほしい。

④ 議員が直接市民の声を聞く

地域を回る、自治会・まちづくり協議会との意見交換、地域イベントへの参加など、直接話せる機会を増やしてほしい。

⑤ 市民と議員の対話の場

意見交換会、交流会、公開討論会、シンポジウム、議員と市民の集いなどを開催してほしい。

⑥ 議会への意見を一元的に集約

議会事務局や議長を窓口として意見を集約し、議会として検討・対応し、その状況も公開してほしい。

⑦ 意見への回答・結果の見える化

意見を届けた後、返信する、実現できなかった場合も理由を説明する、議会でどう扱ったか公開するなどがある。

⑧ 地域単位での意見集約

自治会、まちづくり協議会などを活用し、地域の意見を集約して議会へ届ける仕組みが必要である。

⑨ 学校・若い世代への働きかけ

学校での出前授業、議員との交流、小中高生から意見を聞く、若い世代には SNS を活用するなどがある。

⑩ 議会を市民に開く

議場以外で公開質問を受ける、誰でも発言できる機会がある。

４．自由意見

議会に望むことや、市政に対するご意見・ご提案があれば自由にお書きください。
（記述式）

自由記述の主な意見

① 情報発信の充実

SNS、LINE、Instagram、ホームページ、ケーブルテレビ、新聞・チラシなど、さまざまな媒体を活用して議会情報を発信してほしい。特に若い世代にはスマートフォンで届く情報発信を求める声がある。

② わかりやすい議会情報

議会や議案、財政、政策などの内容が難しいという意見があり、「もっと簡単な言葉で」「小学生でも分かるように」「ポイントを絞って」といった要望がある。
議会用語の解説や、市民生活との関わりを示してほしいとの声もある。

③ 議員を身近な存在に

議員が地域や行事に積極的に参加し、市民と直接話す機会を増やしてほしい。
まちづくり協議会単位での懇談会や市政報告会、ミニ集会などを求める声がある。

④ 市民の声を議会につなげる

市民の意見を聞く機会を増やし、実際に議会で取り上げ、政策や市政に反映してほしい。「声が届いた」「変わった」と実感できることが議会への関心につながるという意見がある。

⑤ 議会・議員の活動を見える化

議員個人・会派の活動や考えをもっと発信してほしいという意見がある。また、選挙の時だけでなく、普段から活動することを求める声もある。

⑥ 傍聴・市民参加の機会

本会議を実際に見たり、市民が議会に参加したりする機会を増やしてほしい。
休日開催、大人数を収容できる会場、学校での議会学習など具体的な提案もある。

⑦ 若い世代・子どもへのアプローチ

小中学校で議会や民主主義を学ぶ授業、社会見学、若い世代向けの SNS 発信など、子どもの頃から議会を身近にする取組を求める声がある。

⑧ 議論・議員活動への期待

議員提案を増やしてほしい、積極的に審議してほしいなど、議会そのものの議論の質を求める意見がある。

⑨ 議会への関心を高める工夫

「もっと楽しく」「身近なテーマを扱う」「イベントを開催する」など、議会を堅苦しいものではなく、親しみやすいものにしてほしいとの意見がある。

⑩ その他・個別の意見

議員定数、政務活動費、重要案件の進捗発信、議会新聞の発行など、具体的な制度・運営に関する提案も寄せられている。